Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 22第49号
2023年（令和五年） 3月24日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

3/9～3/15のNYMEX・WTI先物市場は67.61～76.68ドルの範囲で推移した。

3月16日は、相次ぐ銀行破綻に伴い、米国財務省や大手金融機関が支援を検討中と発表するなど、相次ぐ金融不安への過度の警戒感が後退し、4日ぶりに反発した。米国株式市場の回復に加えて、サウジのアブドラアジズエネルギー相とロシアのノバク副首相がリアドで会談し、OPECプラスの現行減産方針を確認したとの報道も値上がり要因。4月限終値は前日比0.74ドル高の68.35ドル。

週末17日は、経営破綻したシリコンバレー銀行の親会社の連邦破産法11条申請を契機に、米欧の金融不安が再燃、反落した。ただ、為替市場のドル安進行に伴う原油先物の割安感、最近の安値により米国政府が放出で減少した戦略石油備蓄（SPR）の補充を行うとの観測もあり、底値は固かった。4月限終値は前日比1.61ドル安の66.74ドル。

週明け20日は、スイス金融最大手UBSが経営危機のクレディスイス買収で合意するなど、欧米の金融不安への過度の警戒感はひとまず和らぎ、反発した。為替市場のドル安進行も原油先物の割安感となり値上がり要因。4月限終値は前日比0.90ドル高の67.64ドル。

21日は、連邦準備制度理事会（FRB）のイエレン議長が、中小銀行の経営危機連鎖防止に前向き発言するなど、前日に続き、金融不安がさらに後退し、続伸した。また、株式市場における株価回復、ロシアのノバク副首相の3月からの追加減産を6月まで維持するとの発言も、値上がり要因。4月限終値は前日比1.69ドル安の69.33ドル。

22日は、引き続き、過度の金融不安が後退し、3日続伸した。この日、FRBは公開市場委員会（FOMC）で、0.25%利上げを決定、想定の範囲内だったが、米国原油在庫の積み増し報告と相まって、上値を抑えた。この日から期近物となった5月限終値は前営業日比1.23ドル高の70.90ドル。

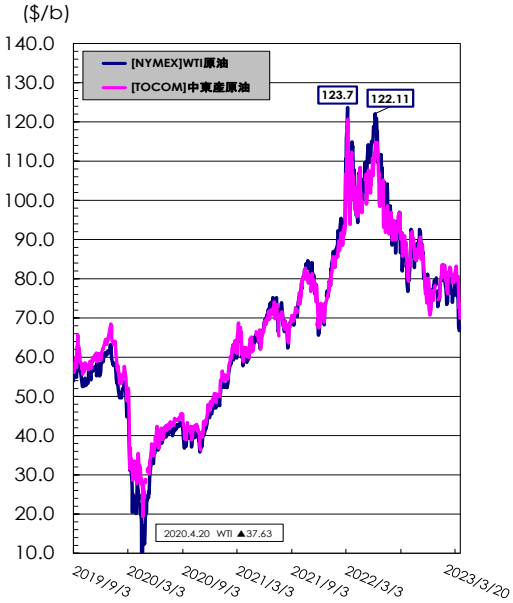
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（5月渡し）は、3月9日～15日の間、77.50～82.10ドルの範囲で推移した。3月16日73.90ドル、17日74.70ドル、20日71.50ドル、22日74.30ドルで推移した。

為替は、3月9日～15日の間、133.21～137.10円の範囲で推移した。3月16日133.31円、17日133.54円、20日132.68円、22日132.54円で推移した。

財務省が3月16日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、2月下旬の原油輸入平均CIF価格は、73,213円で、前旬比1,424円高、ドル建て88.01ドルで前旬比0.21ドル高、為替レートは1ドル/132.25円だった。また、同日発表の2月の原油輸入平均CIF価格は、71,915円で、前月比1,319円安、ドル建て87.71ドルで前月比0.43ドル安、為替レートは1ドル/130.35円だった。

そのような中で、3月20日時点の価格は、ガソリンが前週比0.1円の値上がり、軽油も同0.1円の値上がり、灯油は同2円の値上がり（18リットルベース）であった。ガソリンは10週ぶりの値上がり、軽油は2週ぶりの値上がり、灯油も2週ぶりの値上がり。ガソリンの全国平均価格は167.5円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は9.5円となった。

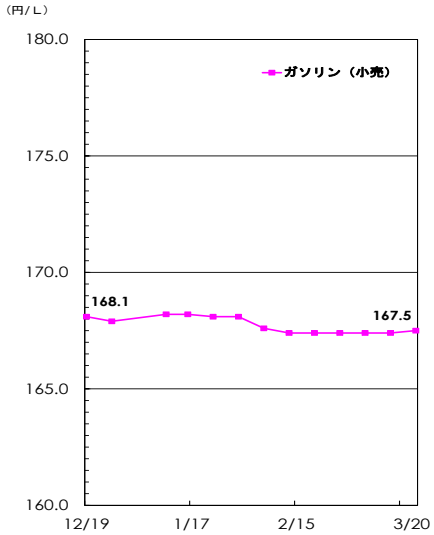
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	3/12 ～ 3/18	2,990	▲ 144	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	80.7	▲ 3.9	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	3/18	10,667	▼ -455	▲ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	3/20	69.94	▼ -10.66	▼ -42.4
	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	3/20	67.64	▼ -7.16	▼ -44.5
	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	2月下旬	88.01	▲ 0.21	▲ 1.26
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	73,213	▲ 1,424	▲ 10,553
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	132.25	▼ -2.27	▼ -17.42
	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	3/20	133.68	▲ 1.66	▼ -12.64



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/12 ～ 3/18	934	▲ 45	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	754	▼ -29	▼ –
	輸出		〃	204	▲ 122	▲ –
	在庫		3/18	1,646	▼ -25	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/14 ～ 3/20	73.6	▲ 0.2	▼ -4.7
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/14 ～ 3/20	73.0	➡ 0.0	▼ -7.0
		(TOCOM/中部)	3/20	75.6	▲ 2.0	▼ -6.4
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/20	167.5	▲ 0.1	▼ -7.1

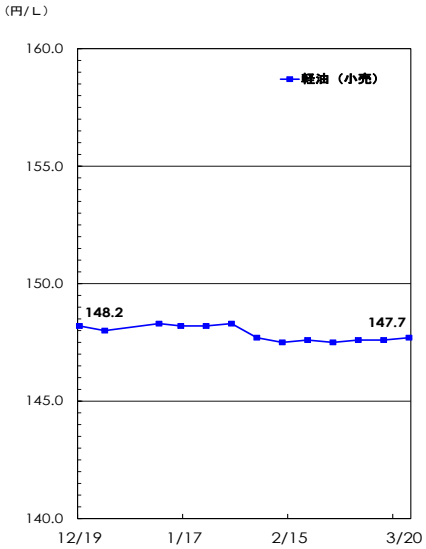
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

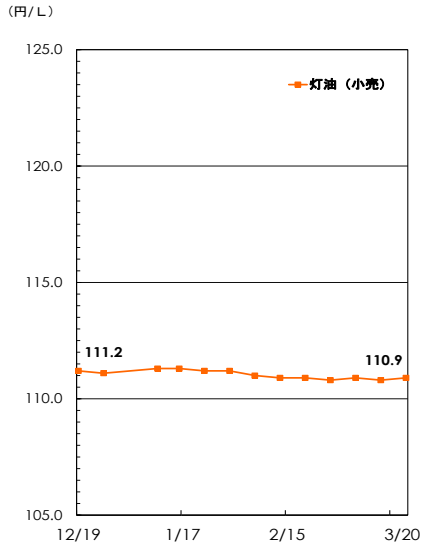
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/12 ～ 3/18	711	▼ -11	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	612	▼ -43	▼ –
	輸出		〃	190	▲ 145	▲ –
	在庫		3/18	1,115	▼ -91	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/14 ～ 3/20	75.2	▲ 0.2	▼ -5.3
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/14 ～ 3/20	77.3	▲ 0.2	▼ -14.3
		(TOCOM/中部)	3/20	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/20	147.7	▲ 0.1	▼ -6.6

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/12 ～ 3/18	243	▲ 12	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	171	▼ -115	▼ –
	輸出		〃	0	➡ 0	➡ –
	在庫		3/18	1,245	▲ 72	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/14 ～ 3/20	75.5	➡ 0.0	▼ -4.2
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/14 ～ 3/20	75.0	➡ 0.0	▼ -6.5
		(TOCOM/中部)	3/20	76.3	➡ 0.0	▼ -4.7
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/20	110.9	▲ 0.1	▼ -4.0



■ 関連情報

1　海外/原油

当週（3月16日～22日）のWTI石油先物市場は、16日の68.35ドルで始まり、米国シリコンバレー銀行・シグネチャー銀行、クレディスイス銀行と相次ぐ経営破綻で金融不安が拡大、週末17日まで不安定な動きが続き、66.74ドルを付けたが、週明け20日からは過度の金融不安への警戒感は後退し3日続伸、節目の70ドルを回復、3月22日の70.90ドルで終わった。

3月22日発表の17日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫統計によると、原油在庫は前週比110万バレル増と、市場予想（160万バレル減）に反する積み増しとなった。

EIAによると、3月20日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比3.4セント値下がりの1ガロン3.422ドル（120.7円/㍑）と3週ぶりの値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比6.2セント値下がりの1ガロン4.185ドル（147.6円/㍑）と7週連続の値下がりであった。

ベーカーヒューズ社によると、3月17日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比1減の589基と5週連続で減少した。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2023年3月12日～3月18日に休止したトッパー能力は23.4万バレル/日で、前週に対して0.7万バレル/日増加した（全処理能力は333.1万バレル/日）。

原油処理量は299.0万klと、前週に比べ14.4万kl増加。前年に対しては3.5万klの減少。トッパー稼働率は80.7%と前週に対して3.9ポイントの増加、前年に対しては2.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/5.0%増、ジェット/1.6%減、灯油/5.0%増、軽油/1.5%減、A重油/13.1%減、C重油/26.8%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl（前週比4.8万kl減）。軽油の輸出は19.0万kl（前週比14.5万kl増）。

出荷（輸入分を除く）は前週に比べて、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではA重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は75.4万kl（対前週3.8%減）と3週連続で減少した。ジェット4.0万kl（対前週71.3%減）、灯油17.1万kl（対前週40.1%減）、軽油61.2万kl（対前週6.6%減）、A重油23.1万kl（対前週14.9%増）、C重油13.0万kl（対前週59.1%減）。

（単位：千KL）

	今週 (3/12 ~ 3/18)	前週 (3/5 ~ 3/11)	前週比	
ガソリン	754	783	▼ -29	(-4%)
ジェット燃料	40	139	▼ -99	(-71%)
灯油	171	286	▼ -115	(-40%)
軽油	612	655	▼ -43	(-7%)
A重油	231	201	▲ 30	(15%)
C重油	130	318	▼ -188	(-59%)
合　計	1,938	2,382	▼ -444	(-19%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

3月18日時点の在庫はジェット、灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、軽油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは164.6万kl、前週差2.5万kl減。前年に対しては6.0万kl少ない。

灯油は124.5万kl、前週差7.2万kl増。前年に対しては8.2万kl多い。

軽油は111.5万kl、前週差9.1万kl減。前年に対しては11.5万kl少ない。

A重油は67.9万kl、前週差0.3万kl減。前年に対しては1.0万kl多い。

C重油は174.7万kl、前週差0.0万kl増。前年に対しては18.9万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (3/18)	前週 (3/11)	前週比	
ガソリン	1,646	1,671	▼ -25	(-1%)
ジェット燃料	746	688	▲ 58	(8%)
灯油	1,245	1,173	▲ 72	(6%)
軽油	1,115	1,206	▼ -91	(-8%)
A重油	679	682	▼ -3	(-0%)
C重油	1,747	1,747	➡ 0	(0%)
合　計	7,178	7,167	▲ 11	(0.2%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

3月14日～3月20日のドル建て中東原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、元売会社の円建て原油コストは、6.0円値下がりしたものと見られる。

上記コストダウンに先週の補助金額17.1円を加えたコスト上昇額11.1円に、今週も補助金9.5円が支給されることから、3/23～3/29の元売会社の実質的な卸価格は1.6円の値上げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

3月14日～20日の製品スポット市況は、3月7日～13日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物取引・灯油の陸上取引の横ばい、灯油の海上取引の値下がりを除き、他の取引・油種で値上がりした。

直近週（3/14～3/20）の陸上スポット価格平均値は、前週（3/7～3/13）比で、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.2円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（3/14～3/20）に、前週（3/7～3/13）比で、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.2円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.2円の値上がりだった。

（RIM）　（単位：円/㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(3/14 ~ 3/20)	前週　(3/7 ~ 3/13)	前週比
スポット価格	レギュラー	73.6	73.4	▲ 0.2
	灯油	75.5	75.5	➡ 0.0
	軽油	75.2	75.0	▲ 0.2

（TOCOM）　（単位：円/㍑）

[期近物/終値〔平均〕]		今週　(3/14 ~ 3/20)	前週　(3/7 ~ 3/13)	前週比
先物価格	レギュラー	73.0	73.0	➡ 0.0
	灯油	75.0	75.0	➡ 0.0
	軽油	77.3	77.1	▲ 0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値　（3/14～3/20実績値）　（単位：円/㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.2	➡ 0.0	▲ 0.1
灯油	➡ 0.0	➡ 0.0	➡ 0.0
軽油	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.2
A重油	▲ 0.1		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

3月20日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の167.5円、軽油も0.1円高の147.7円、灯油は18㍑ベースで2円高の1,997円（1㍑ベースでは0.1円高の110.9円）。ガソリンは10週ぶりの値上がり、軽油は2週ぶりの値上がり、灯油も2週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは22都道府県、横ばいは9県、値下がりは16府県だった。全国最安値は徳島県と宮城県の160.0円、その次は岡山県と埼玉県の162.1円であった。他方、最高値は長崎県の180.1円だった。

最も値上がりしたのは滋賀県（前週比1.7円高）、横ばいは大分県等9県、最も値下がりしたのは愛知県（同1.1円安）だった。

次回調査時（3/27）のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

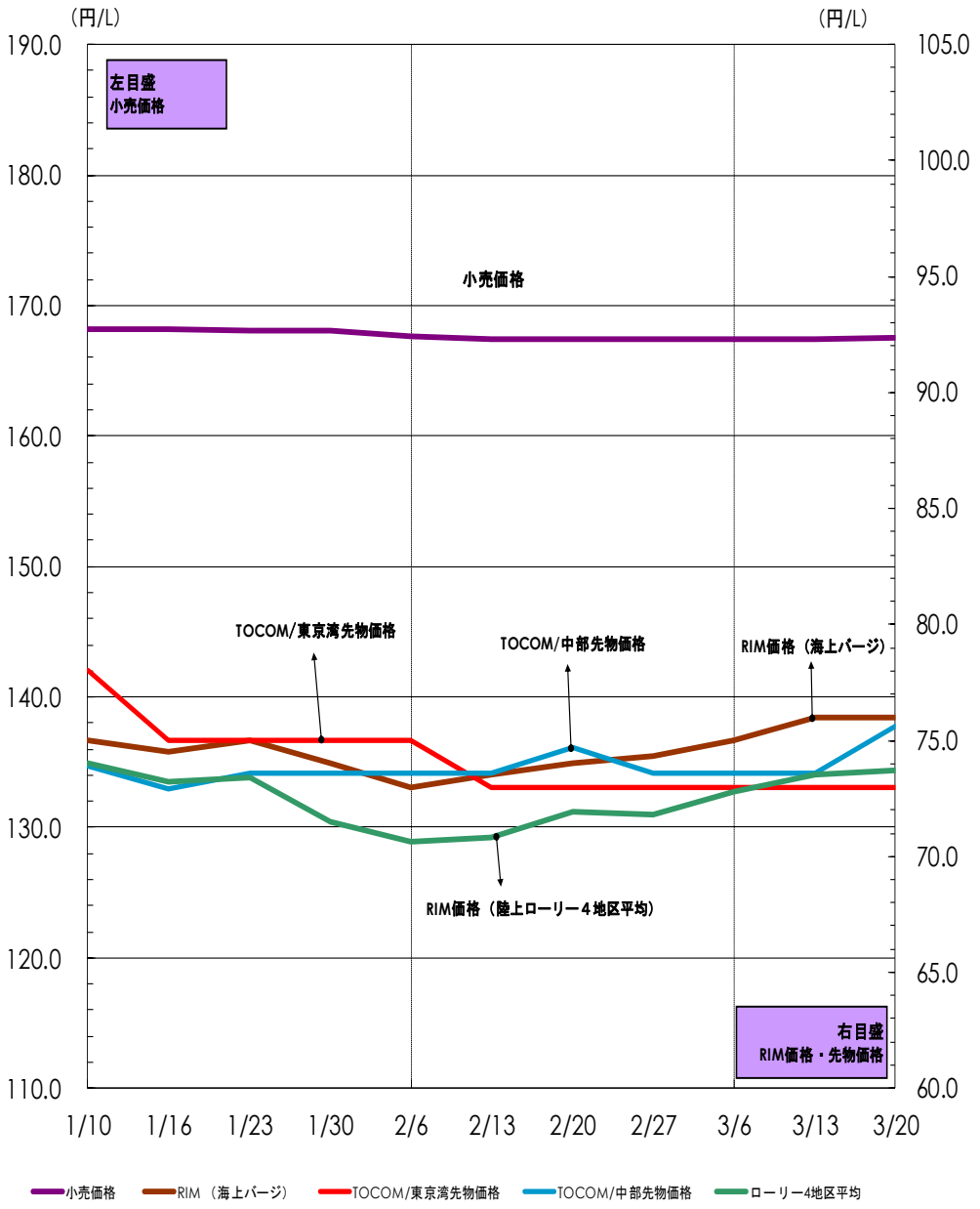
（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(3/20)	前週　(3/13)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	167.5	167.4	▲ 0.1	08/8/4	185.1
	灯油	110.9	110.8	▲ 0.1	08/8/11	132.1
	軽油	147.7	147.6	▲ 0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/1/10　～　2023/3/20)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2022第50号）の公表は、3/31（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。